

夏

中日双语  读物

之物语。

主编 / 王秀文 编著 / 张 红 元明松 王秀文



附送MP3光盘



华东理工大学出版社
EAST CHINA UNIVERSITY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY PRESS

夏之物语

主编/王秀文 编著/张红 元明松 王秀文



附送MP3光盘



华东理工大学出版社
EAST CHINA UNIVERSITY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY PRESS

图书在版编目(CIP)数据

夏之物语(附送 MP3 光盘)/王秀文主编;张红,元明松,王秀文编著. —上海:华东理工大学出版社,2009.8

(中日双语心灵读物)

ISBN 978-7-5628-2534-0

I. 夏... II. ①王...②张...③元...④王... III. ①日语-汉语-对照读物 ②散文-作品集-世界 IV. H369.4:I

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2009)第 047536 号

中日双语心灵读物

夏之物语(附送 MP3 光盘)

主 编 / 王秀文

编 著 / 张 红 元明松 王秀文

责任编辑 / 苏 靖

责任校对 / 张 波

装帧设计 / 戚亮轩

出版发行 / 华东理工大学出版社

地 址:上海市梅陇路 130 号,200237

电 话:(021)64250306(营销部)

(021)64250787(编辑室)

传 真:(021)64252707

网 址:www.hdlgpress.com.cn

印 刷 / 江苏句容市排印厂

开 本 / 710mm×1000mm 1/16

印 张 / 9.75

字 数 / 140 千字

版 次 / 2009 年 8 月第 1 版

印 次 / 2009 年 8 月第 1 次

印 数 / 1—6000 册

书 号 / ISBN 978-7-5628-2534-0/H·824

定 价 / 22.00 元(附送 MP3 光盘)

(本书如有印装质量问题,请到出版社营销部调换。)



编写说明

本套《中日双语心灵读物》以春夏秋冬四季为主题,采用中日文对照的方式,向读者全方位地展示日本的社会及文化习俗。全套丛书由大连民族学院日语系的数名教师编写而成。其编写目的是让读者感受原汁原味的日语,以增强语感,扩大日语词汇量,熟悉更多的日语表达方式,同时也帮助读者更多地了解日本社会、文化知识,提高中日跨文化沟通的能力。

笔者在编写过程中注意了以下几点:

一、关于文章的选择。本系列读物的文章均选自日本刊物或日文网站。在选材时充分注意了文章体裁、题材的多样性,所选取的文章知识性、可读性和趣味性兼具。同时考虑到语言的规范性、文章的长度和难易程度,对一些过长和内容略有不适的文章,在不影响整体内容、结构的前提下略作了压缩和删减,并在文章的末尾注明了文章的出处。

二、关于读物的编写。首先是“振假名”(即标读音),在原文文章中适当地标注了“振假名”以方便读者阅读,标注的原则是选择难读词语、不常见词语和容易读错的词语。其次是“词语解释”,在原文文章中适当地选择部分词汇进行注音和解释,词汇的选择原则是挑选一些生词、难词和多义词等。解释时原则上只注明该词在文章中的词义或适当地说明该词的社会、文化背景,以帮助理解。然而,有些汉字词汇虽为生词、难词,但是在词义与汉字基本一致的情况下,即中国人见其词可解其意的情况下不再另做解释。

三、关于参考译文。每篇文章后均附中文译文供读者阅读时参考。中文译文的翻译以直译为原则,即力求逐词逐句反映原文的含义,而基本上没有进行文饰。因此,有些翻译从汉语角度看可能不够华美和流畅,这是由于翻译的原则不同而产生的,请予理解。

在此系列读物出版之际,首先谨向相关文章的作者表示诚挚的感谢,是他们为我们提供了体验日语和感受日本的美文;其次向华东理工大学出版社的编辑表示感谢,是他们的创意为读者提供了日语学习的园地。随书所附送的 MP3 光盘也将此书变成了有声读物。本套丛书在编写、翻译过程中难免存在一些问题,欢迎广大读者批评、指正。

本书主编

2009. 6



目次

1	① 夏はおいしい 夏季美味
6	② 風鈴 风铃
11	③ 朝顔 牵牛花
15	④ 夏休みの思い出 暑假的回忆
20	⑤ すだれ 帘子
25	⑥ 青い梅 白い桃 青梅与白桃
30	⑦ 夏が来れば思い出す 夏日回想
35	⑧ セタ 七夕节
39	⑨ トンボ 蜻蜓
44	⑩ じんべい 筒袖外掛
48	⑪ 悲惨な夏の思い出 凄惨的夏日回忆
53	⑫ 阿波踊りの傍観者 阿波舞的旁观者
58	⑬ ほととぎす 布谷鸟



目次

63	⑭ 蚊帳 蚊帳
68	⑮ 色と温度 颜色与温度
73	⑯ 故郷の夏 故乡的夏天
79	⑰ お盆 盂兰盆节
83	⑱ 日本人はなぜ夏に踊るか 日本人为什么夏季跳舞
88	⑲ ござ 凉席
92	⑳ 夏休みの原風景 暑假的原风景
96	㉑ 花火大会 焰火大会
101	㉒ 夏のしつらい 夏季的装饰
107	㉓ 緊張の夏 紧张的夏日
112	㉔ 蝉の鳴かない都会の夏 没有蝉鸣的都市之夏
117	㉕ 日本の夏の季節風 日本的夏季季风
121	㉖ 縄のれん 绳帘小酒馆



目次

- 125 ②7 日常の中に潜む恐怖
隐藏在日常生活中的恐惧
- 130 ②8 ねぶた祭り
纸偶灯笼节
- 135 ②9 盛夏うとましきもの数題
盛夏的几件烦心事
- 140 ③0 炎熱残暑
炎热的秋老虎

1. 夏はおいしい

夏は、おいしいって、このくそ暑さの夏の何がおいしいのさ？おいしいってのなら、昔から秋に決まっているじゃありませんか。

「天高く馬肥ゆる秋」「味覚の秋」って、ぴしゃりとした慣用句ありますよ。風景や空気だって、「天高く」で、爽やかで透明な秋の空の広がり、これに優る季節は他にないってね。

そうこられては、はい、そのようだと、返す言葉ありません。しかし、夏はいいねと、これは私の独り言。

そこで夏、まず太陽がいっぱい。炎のように燃える夏、それは命の象徴、生きているってこと。いっぱい過ぎて、日焼けにご用心。

そんな夏、身体が水を欲しが。そこで水、冷たい水がうまい、おいしい。水道の水だって冷やせば、それだけで十分においしい。山歩きの時に合う奥山の天然水なんってね、どこもかしこもおいしい。

息抜きの一とき、ビールも夏がやはり一番。つまみは枝豆、おいしいね。かき氷、麦茶、ワインもよく冷やして乾杯。冷たくしても、身体はますます暑くする不思議、飲み過ぎにご用心。

蝉がジリジリと鳴く夜、西瓜を戴いて切ってみれば、あれえっ、意外？「黄色」でした。けれど糖度はそこそこにあって、よかった。うまい。



この夏、桃まだ食べていなかった。メロン、トマト、とうもろこし、^{そらまめ しゆん}空豆も旬。

ところてん、^{みずようかん}水羊羹、^{しらたま}白玉、くずきり、^{ひやむぎ}冷麦、冷やしそうめん、冷やし中華、^{ひやっこ}冷奴。季節じゃないけれど、^{そ ば えんしよ}蕎麦も炎暑の夏がよく似合う。

^{うみ さち}海の幸、^{かわ さち}川の幸に参りましょう。きす、あなご、うなぎ、^{あゆ}鮎ってところかなあ。関西では、^{はも}鰻がなくっちゃ格好つかないようですな。

次は、野菜。なす、かぼちゃ、みょうが、きゅうり、いんげん豆。それと、特に好きなのが、とうがんでした。その「とうがん」は「冬瓜」と書きます。夏のものなのになぜか「冬の瓜」です。思わずくすくすと吹き出してしまいそうな、そんな冬瓜ですが、私は小さな頃から大好きでした。

^{かす}微かな甘さにとろりとした^{したざわ}舌触りの冬瓜、ふわふわとした^{かる}軽めの^{しょっかん}食感が私にピッタリ合うのか、この辺りは^{あいしょう}相性^{この}とでもいうのか、好みも人によって様々ですね。

(<http://nagoya.cool.ne.jp/nobuharu2933/omoumamani/omoumamani3.htm#kikubiyori>による)

● 温馨词汇

くそ	过度
びしゃり	贴切的
優る[まさる]	胜过, 强过
日焼け[ひやけ]	晒黑
用心[ようじん]	注意, 小心
水道[すいどう]	自来水
どこもかしこも	到处
息抜き[いきぬき]	休息一会儿, 歇口气
つまみ	下酒菜, 小吃
枝豆[えだまめ]	毛豆



かき氷[かきごおり]	刨冰
そこそこ	适当,还可以
メロン	甜瓜,白兰瓜
とうもろこし	玉米
空豆[そらまめ]	蚕豆
旬[しゅん]	旺季,应时
ところてん	凉粉
水羊羹[みずようかん]	(水分多的)羊羹
白玉[しらたま]	糯米粉团
くずきり	葛粉冻
冷麦[ひやむぎ]	凉面
冷やしそうめん[ひやしそうめん]	冷龙须面
冷やし中華[ひやしちゅうか]	中国冷面
冷奴[ひやっこ]	凉拌豆腐
幸[さち]	(海、山)美味食品
きす	船丁鱼
あなご	星鳗,海鳗
うなぎ	鳗鱼
鮎[あゆ]	香鱼
鰻[はも]	海鳗
格好つかない[かっこうつかない]	不成体统,不像样子
かぼちゃ	南瓜
みょうが	蕺荷
いんげん豆[いんげんまめ]	菜豆,扁豆



くすくす

窃笑,小声笑

吹き出す[ふきだす]

(忍不住)笑出来

とろりと

黏糊,稠糊

舌触り[したざわり]

味道,舌头触及食物的感觉

ふわふわ

(口感)绵软

相性[あいしょう]

缘分,性格相合

● 美丽译文

夏季美味

虽说夏天味美,但在这炎热的夏天究竟什么味美呢?说到味美,自古以来不都是说秋天吗?

“天高马肥的秋天”、“增进食欲的秋天”——有很多贴切的熟语。即使是风景和空气,秋天“天高”、气爽,晴空万里,没有胜过这个季节的了。

这样说来,的确如此。我无言以对。但是我还想自言自语地说:“夏天好。”

首先,夏天太阳很足,像火焰燃烧一样的夏天是生命的象征,是鲜活的。太阳太足,要注意晒黑呦。

在这样的夏天,身体需要水分。所以水、尤其是冰凉的水很好喝。哪怕是自来水,只要冰镇一下就足够好喝了。至于爬山时遇到的深山里的天然水,那更是哪里的都好喝。

在休息时,夏天喝上一口啤酒最好了。用毛豆下酒,那是真好啊。用冰镇的刨冰、大麦茶、葡萄酒干杯,虽然很凉,但奇怪的是身体却越来越热,要注意不要喝多呦。

在“知了、知了”蝉鸣的夜晚,切开别人送来的西瓜,没想到竟是“黄瓤”。不过还好,糖度适中,很好吃。

今年夏天还没吃桃。不过,甜瓜、西红柿、玉米、蚕豆正应时。

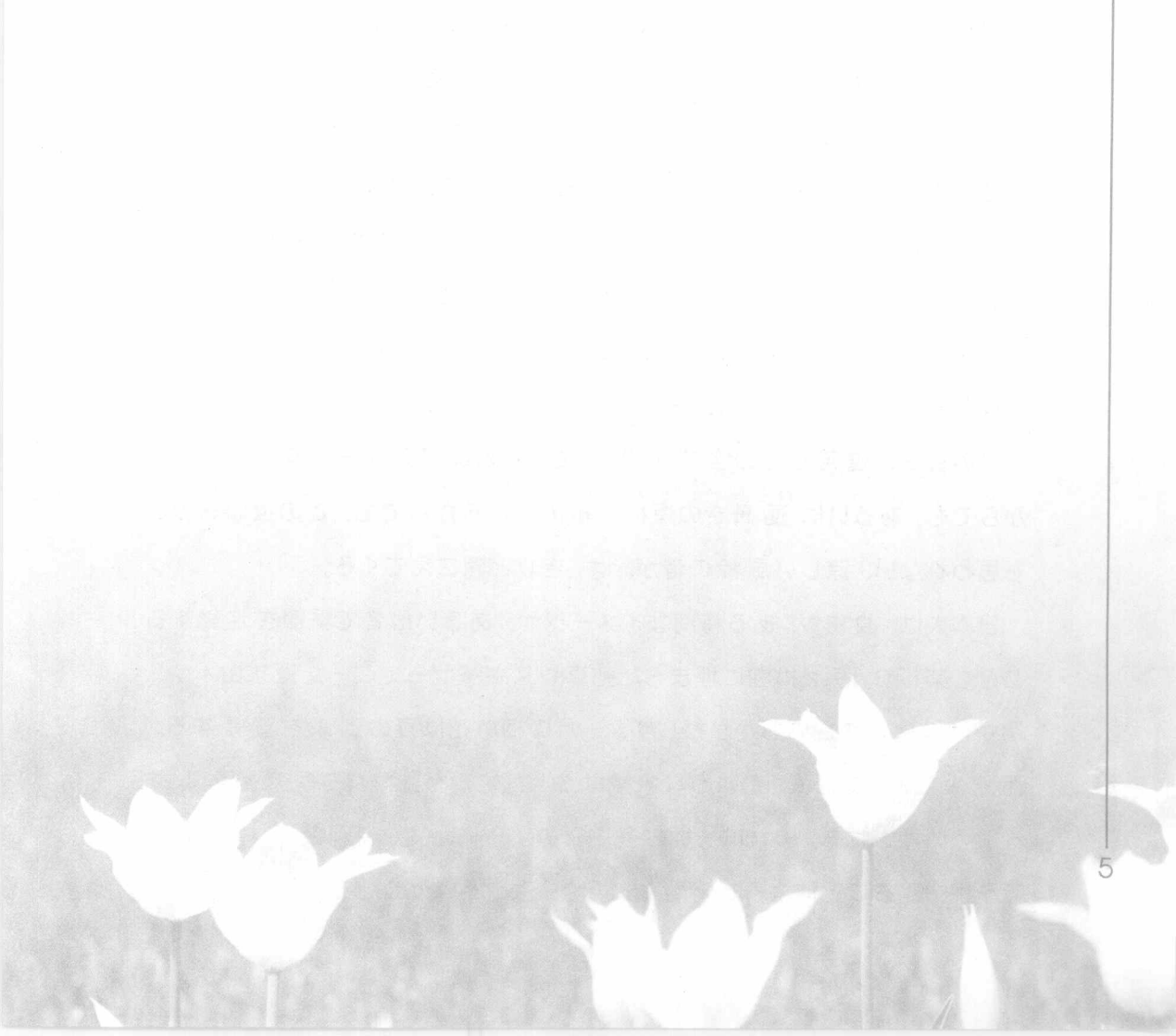


还有凉粉、羊羹、糯米粉团、葛粉冻、凉面、冷龙须面条、中国冷面、凉拌豆腐等。虽然还没到季节，荞麦面与炎热的夏天也很相配。

说到海鲜、河鲜，那便是船丁鱼、星鳎、鳎鱼、香鱼之类。在关西，要是没有海鳎便不像样子。

接下来是蔬菜。茄子、南瓜、蓼荷、黄瓜、扁豆，还有我特别喜欢的冬瓜。不知为什么，夏天的蔬菜却叫“冬天的瓜”，这冬瓜使我忍不住想发笑，但是我从小就最喜欢吃了。

冬瓜那微甜而黏稠的舌感，那绵软而清淡的口感或许正适合我，或许可以称为投缘。看来人的口味是各不相同啊！



2. 風鈴

夏である。あつい^{ねつ}熱の波^{なみ}が街を蔽^{おお}い、圧倒^{あつとう}する。歌舞伎^{かぶき}の季節^{えん}の演^{えん}じ物^{もの}を反映^{はんえい}して、夜のテレビ映画は納涼^{のうりよう}怪奇^{かい}映画^{えい}で満^みたされる。下駄^{げた}のリズミックなカラコロという音が、涼^{りよう}を呼ぶように深夜^{こだま}の町に響^{きこ}える。

鰻^{うなぎ}の照^てり焼^やきが「スタミナ料理」として宣^い伝^{てん}される。それは息^{いき}の詰^{つま}りそうな地下鉄^{じかてつ}や、蒸^{じよう}気^きのラジエーターのような街路^{がいろ}で失^ういがちな精^{せい}力^{りき}を回^{くわい}復^{ふく}するの^のに、よいのだそうである。アパ^あー^ぱー^ート^となどが日本式^{もくそうかおく}の木造^く家^く屋^くを駆^く逐^くして^して^てい^いない、また近^{きん}所^{しよ}の人^{ひと}々^々が何^{なん}代^{だい}も前^{まへ}からの知^ちり合^あいであるよ^ような町^{まち}の古^{ふる}い一^い角^{かく}では、夕^{ゆう}刻^{こく}、戸^あは開^ひけ放^{はな}たれたま^ま、縁^{えん}側^{がわ}に座^まった老^{らう}人^{じん}がう^うち^ちわ^わを使^{つか}い^いながら、喋^{しゃ}べったり、暮^くを打^うったりして^{して}い^いる^るか^かも^も知^しれ^れな^ない。

この暑^{あつ}さと重^{おも}苦^くしさの全^{ぜん}てを貫^{つらぬ}いて、六^{ろく}階^{かい}建^{けん}てアパ^あー^ぱー^ート^との軒^{のき}の^のところ^{ところ}からでも、あるいは瓦^{かわら}葺^ぶきの屋^や根^ねの樋^{とい}の^のところ^{ところ}からでも、この世^{このよ}の^のもの^{もの}の^のとも^{とも}思^{おも}われ^れない、涼^{ひやう}しい風^{ふう}鈴^{りん}の音^{おと}が、は^はっ^っき^きり^りと聞^{きこ}えてくる。

日本人^{にほんじん}は、食^{しょく}物^{ぶつ}や、ある特^{とく}別^{べつ}なイメ^いー^ージ^じや、あるいは音^{おと}で季^き節^{せつ}を定^{てい}義^ぎする^{する}こ^こと^とを^を楽^{らく}し^しむ。例^{れい}え^えば^ば雪^{ゆき}に埋^うま^まった列^{れつ}車^{しや}やス^すキ^きー^ーヤ^やー^ーで^でご^ごった返^{かえ}す山^{さん}々^々や、霜^{しも}焼^やけの痛^{いた}がゆ^ゆさ^さに^にも^もか^かかわ^わらず、一^{いつ}月^{げつ}の梅^{うめ}の花^{はな}は春^{はる}の到^{とう}来^{らい}を宣^{せん}言^{げん}する。西^{せい}欧^{おう}人^{じん}にと^とつ^つて^ては、そ^その^のよ^よう^うな象^{さう}徴^{てい}は、代^{だい}表^{ひょう}す^すると言^いわれ^れる季^き節^{せつ}と矛^む盾^{じゆん}す^する^るよ^よう^うに^に思^{おも}われ^れる。そ^それ^れは一^{いっ}種^{しゆ}の曼^{まん}陀^だ羅^らのよ^よう^うに、何^{なん}か特^{とく}別^{べつ}のシン^{しん}ボル^{ぼる}に意^い識^しを^を集^{しゆ}中^{ちゆう}するこ^こと^とによ^よつ^つて、現^{げん}実^じを操^{そう}作^{さく}し^しよう^{よう}と^とい^いう^うの^のだ^だら^らう^うか。



これらの季節のシンボルがどれほど神聖不可侵であるかを、私は、日本人の友人に冬も夏も風鈴を^さ提げておくとうっかり^も洩らしてしまった時に、思い知らされた。彼らの^{あざけ}嘲りを含んだ驚きは、更に私が、「だって、あの寒い日本の家屋の中で、夏の暑さの記憶を^{きおく}蘇^{よみがえ}らせるために風鈴を吊しておくのよ」と主張した時、抑え切れない爆笑^{ばくしょう}を呼んだものであった。

しかし、このような象徴主義^{しょうちようしゅぎ}についての議論^{ぎろん}は、暫らくおこう。初めて経験した東京の夏の記録的な^{もうしよ}猛暑^{なかくさ}の中で、慰め^{なぐさ}を与えてくれた、あの魅惑的な音色^{おんしよく}を、私は以来ずっと愛し続けている。風鈴は愛らしく、デリケートな形をしていて、金属製のものでも値段は大変安い。だからそれは、日常生活の中で楽しめる小物^{こもの}として、誰でも手の届く存在である。同時にそれは^{ちんぷ}陳腐になることなく、迷惑的であるというに止まらない。

一度金属に振動^{しんどう}が与えられると、魅せられたような響き^{ひび}は決して消えることなく、耳の開かれたもの全てに知覚可能な世界の中へとひたすらに^{はい}這入りこんで行くように思われる。輪廓^{りんかく}のはっきりした魔的な^{まてき}牙は、聞く者をこの世の暗い不快^{ふかい}さから静かに運び去^{はこ}って、いつの日か、音の旅するところへどこまでも連れていってくれる——そんなかなわぬ^{のぞ}望みを約束するかのよう

に、響くのである。

(シャロン・アン・ローズ『日本についての100章』による)

● 温馨词汇

蔽う[おおう]

覆盖, 蒙上

演じ物[えんじもの]

节目, 表演

下駄[げた]

木屐

リズムック

有节奏的



カラコロ	(木屐的)呱嗒呱嗒声
飮する[こだまする]	回响
照り焼き[てりやき]	蘸酱油和料酒烤制(的鱼)
スタミナ料理[スタミナりょうり]	滋补菜肴
息が詰る[いきがつまる]	喘不过气来
ラジエーター	散热器
縁側[えんがわ]	套廊, 回廊
うちわ	蒲扇
碁を打つ[ごをうつ]	下围棋
瓦葺き[かわらぶき]	铺瓦
樋[とい]	导水管, 雨流子
スキーヤー	滑雪者
ごった返す[ごったがえす]	杂乱无章, 拥挤不堪
霜焼け[しもやけ]	冻伤, 冻疮
痛がゆさ[いたがゆさ]	痛痒
洩らす[もらす]	流露, 发出
思い知る[おもいしる]	领悟到, 明白, 感觉到
嘲る[あざける]	嘲笑, 奚落
蘇る[よみがえる]	复活, 复苏
魅惑的[みわくてき]	迷人的
デリケート	精致, 精密
小物[こもの]	小饰品, 小东西
手が届く[てがとどく]	伸手可得, 买得起
ひたすら	一味地, 一个劲儿地
かなう	实现, 如愿以偿



● 美丽译文

风铃

夏天，滚滚热浪笼罩和控制着城市。与歌舞伎的季节性演出相衬，晚间的电视节目充斥着纳凉的怪异电影。木屐有节奏的呱嗒呱嗒声似乎在召唤着凉意，在深夜的街道上发出回响。

作为“滋补菜肴”，烤鳗鱼被大肆炒作。据说这种菜肴对于恢复消失在令人窒息的地铁内和像蒸气散热器一样的街道上的精力很有作用。在公寓等还没有赶走日本式木制房屋、在左邻右舍从几代前开始就相识的古街一角，傍晚门窗敞开着，老人们坐在走廊上摇着蒲扇闲聊，或下着围棋。

穿过这一切的炎热和沉闷，不知道是从六层公寓的屋檐下，还是从瓦房顶下的导雨管处传来清晰而凉爽的风铃声，令人想象不到它是来自这个世界。

日本人喜欢用食物或某种特殊的印象、声音来给季节下定义。例如，尽管列车被大雪覆盖，山上滑雪者拥挤不堪，或者冻疮还在痛痒，一月的梅花依然宣告春天的到来。对于西欧人来说，这样的象征与其所代表的季节相矛盾。难道那是一种曼陀罗，想把意识集中到某种特别的象征上来驾驭现实吗？

当无意中向日本朋友说到我不分冬夏都悬挂着风铃时，领悟到这样的季节象征是多么的神圣而不可侵犯。面对他们那充满嘲讽的惊讶，我又强调说：“那是为了在寒冷的日式房屋里唤起盛夏炎热的记忆而挂的风铃。”这时，又招来一阵难以抑制的哄堂大笑。

现在，暂且不提关于象征主义的议论。自那以后，我一直喜欢在那初次体验的东京夏季创纪录的炎热中带给我的慰藉的、迷人的音色。风铃可爱而精致，即便是金属制的也十分便宜。因此，它作为日常生活中赏玩的小物品，是任何人都可以买得起的。同时，它不会过时，也不会让人觉得是一种累赘。



金属一旦振动，那诱人的声响便绝不会消失，仿佛将听觉不停地带入可知觉的世界。那轮廓清晰的诱人的回响像是在保证满足你那不可实现的愿望——把你从人世间灰暗的不快中静静地带出，终有一天带你到那无尽的音之旅途。